

### 3. 機械設備工事

3-1. 昇降機設備 .....	E-1
3-1-1. 仕様の決定 .....	E-1
(1)検討項目及び図面への特記項目 .....	E-1
(2)仕様の決定 .....	E-9
3-1-2. 作図 .....	E-18
3-1-3. 積算方法 .....	E-21

## 3-1. 昇降機設備

### 3-1-1. 仕様の決定

#### (1) 検討項目及び図面への特記項目

昇降機設備の仕様の決定において、公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和7年版（以下「標準仕様書」）及び建築設備設計基準（令和6年版）（以下「設計基準」）に記載のある項目を検討項目とし、そのうち図面に特記すべき項目を特記項目として表3-1-1に示す。また、備考欄に検討項目の標準的な仕様や特記事項を記載している。

表 3-1-1(a) 基本仕様

	検討項目	特記項目	備考
一般事項	用途	○	一般乗用/寝台用/人荷共用/荷物用
	積載量	○	
	定員	○	
	定格速度	○	
	構造（機械室）	○	機械室あり/機械室なし
	制御システムのサイバーセキュリティ対策	○	対策の有無
駆動装置等	巻上機		歯車の有無
	電動機		
	制御方式		VVVFが標準
	ブレーキ		
	電源盤・制御盤	位置	○ 昇降路断面図に図示
		電源盤及び制御盤	
		高調波対策	○ 対策の有無
		動力計測用電力計	○ 適用の有無
		着床精度	
		制御装置	○ 乗合方式 ○ 管制運転
	そらせ車及びマシンベッド		鉄/炭素鋼
	マシンビーム		鋼材/形鋼
	戸開閉方式	○	戸の枚数、両引/片引
	出入口方式	○	一方向出口/二方向出口
	正面停止数	○	
	回生電力備蓄システム	○	有無を検討する

表 3-1-1(b) かご仕様

検討項目		特記項目	備考
かご枠			構造部材の材質
かご床	材質、敷居の材質	○	材質を指定する場合は特記
	敷物	○	敷物の有無、材質等
	床の構造		根太の材質、床の材質
	鋼板製エプロン		
かご 室	側板の材質	○	材質を指定する場合は特記
	天井と側壁の接合		
	非常救出口		
	保守点検用設備		
	操作盤	カバープレート	
		操作ボタン	
		登録呼び取消機能	○ 適用の有無
	インジケーター	カバープレート	
		表示方式	
	乗過警報装置		
	各階案内表示板	○	適用の有無
	用途、積載量及び最大定員を明示した標識		
	インターホン	○	通話先を図示する
	館内放送用スピーカー	○	適用の有無
	換気扇	○	適用の有無
	照明器具	○	器具形状等を指定する場合は特記
	停電灯		
	着脱式壁保護材	○	適用の有無

検討項目		特記項目	備考
かご付加仕様		○	付加仕様それぞれの適用の有無
	専用操作盤	構成、位置	
		カバープレート	
		操作ボタン	
	手すり	取付位置	
		材質	○ 材質を指定する場合は特記
	鏡		
	専用インジケーター	カバープレート	アルミニウム/ステンレス
		表示方式	
	キックプレート	○	正面壁の場合は特記
	視覚障害者用装置（点字、自動放送）	○	インターホンの応答灯を検討（聴覚障害）
かご戸	材質	○	材質を指定する場合は特記
	中央開き戸の戸当り部分		
	セーフティィシュー		
	出入口検出装置	○	装置の有無
	戸の開閉装置		

表 3-1-1(c) 乗場仕様

	検討項目		特記項目	備考
乗場	三方枠		サイズ	
	幕板		材質	○ 材質を指定する場合は特記
	敷居			アルミニウム/ステンレス
	戸		○	材質を指定する場合は特記 窓の有無を検討
	ドアロック			
	乗場ボタン	カバープレート		
		操作ボタン		
	専用乗場ボタン	適用		○ 適用の有無
		カバープレート		
	インジケーター	表示方式		○ 形式、音声装置の有無
		カバープレート		
非常着床用出入口		○	仕様	

表 3-1-1(d) 昇降路仕様

	検討項目		特記項目	備考
昇降路	レール			
	レールプラケット	設置間隔		
		地震時水平荷重		
	ガイドシュー			
	主索			
	張力平衡用ばね			
	ロープ自重の補償		○	
	釣合おもり			
	昇降路内機器カバー			
	フェッシャプレート			
レール支持方式				

表 3-1-1(e) 安全装置仕様

	検討項目	特記項目	備考
安全装置	戸開走行保護装置等		
	つり合いおもり非常止装置	○	適用の有無
	非常救出口がない場合		
	機械室なしの場合		
	緩衝器		
耐震措置	インターホン		
	耐震クラスの分類	○	S14/A14
	時刻歴応答解析の適用	○	適用の有無
	地震感知器	○	S 波 (普通級/精密級)
	設置位置		
	加速度の設定方式、設定値		標仕の表より適用
	急行ゾーンを有するエレベーター		
長尺物振れ感知器	長尺物振れ感知器	○	建築物高さ、昇降路全高が規定値を超える場合

表 3-1-1(f) 監視盤仕様

	検討項目	特記項目	備考
監視盤	一般事項	○	構成、形式を特記する
	監視装置	表示部	LED 表示/液晶ディスプレイ
		表示項目	
		操作キースイッチ	適用の有無
		ボタン類	
	電源装置		
	操作卓	○	適用及び寸法を特記する
エレベーター警報盤	エレベーター警報盤	○	適用の有無

表 3-1-1(g) 塗装仕様

検討項目		特記項目	備考
塗装	一般事項	かご室内・三方枠・戸の見え掛け部	
		防錆処理	
	塗料	塗料	
		ホルムアルデヒド放散量	
	塗装標準	塗膜性能	
		塗装種別	○ 1種/2種/3種
	塗装色		

標準仕様書に記載があるもののほか、昇降機の仕様を決定する上で必要な項目を表3-1-1(h)及び(i)に示す。

表 3-1-1(h-1) 追加機能

	検討項目	特記項目	備考
追加機能	マルチビームドアセンサ	○ (追加機能)	必要に応じて仕様表に追加
	ドアセーフティシュー		
	かご照明と換気装置の自動休止		
	かご行き先取り消し機能		
	かご呼び一括キャンセル動作		
	いたずら呼び自動キャンセル		
	ドア過負荷時反転動作		
	休止機能		
	開延長ボタン		
	アナウンス機能		
	ドア故障時次階自動着床機能		
	遠隔監視メンテナンス用インターフェース		
	乗場側利用者検知機能		
	ドア引込み防止機能		
	休止灯		
	効率配車待機		
	各階停止運転		
	かごゆすり検知機能		
	強制戸閉動作		

表 3-1-1(h-2) 追加機能

	検討項目	特記項目	備考
追加機能	満員出発時乗場呼び自動登録機能 戸開放時間自動設定 ドアリオーブン動作 緊急時 4 カ国語表示 着床時行き先階ボタン点滅機能 ハイコントラスト凸文字ボタン 大型乗場ボタン 大型戸開ボタン 敷居溝幅 10mm 敷居間ギャップ 10mm 敷居間すきまレス 遮煙機能 煙感知器点検口スイッチ 防犯カメラ 特定客先仕様（文部科学省） かご床補強付 高調波対策 到着チャイム 操作盤カードリーダー	○ (追加機能)	必要に応じて仕様表に追加

表 3-1-1(i) その他

	検討項目	図面への特記項目	備考
その他	動力電源電圧		
	動力電源周波数		
	レール下端部荷重（長期荷重）		
	ピット荷重（短期荷重）	○（図示）	
	工事区分表		
	動力電源設備		
	レール支持用ブラケットの地震時水平荷重		

## (2)仕様の決定

前項で示した特記項目に基づき仕様を決定し、仕様表にまとめる。表 3-1-2 に仕様表の例を示す。仕様の決定にあたっては、下記参考図書等を参考に決定する。

なお、特記項目を記載しない事項は、製造者標準とする旨を図面に記載することとし、具体的な仕様の記載はしないこととする。ただし、仕様がばらつくおそれがある場合は参考にしたメーカーの図面を参考図として記載する。

- ・公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）  
「第 9 編 昇降機設備工事」
- ・建築設備設計基準  
「第 6 編 搬送設備 第 1 章 エレベーター」
- ・昇降機技術基準の解説（以下「技術基準の解説」）

表 3-1-2(a) 基本仕様

項目		特記事項	
基本仕様	1 用途	・ 乗用 ・ 人荷共用	・ 寝台用 ・ 荷物用
	2 積載量	( kg )	
	3 定員	( 人 )	
	4 定格速度	( m/min )	
	5 構造	・ 機械室あり	・ 機械室なし
	6 制御システムのサイバーセキュリティ対策	・ 対策あり( ) ・ 対策なし	
	7 電源盤、制御盤の位置	・ 昇降路内	・ 乗場
	8 高調波対策	・ あり( )	・ なし
	9 動力計測用電力計	・ あり	・ なし
	10 乗合方式	・ 乗合全自動方式(SC) ・ 全自動群管理方式(GSS)	・ 群乗合全自動方式(MSC) ・ ( )
	11 管制運転	・ 地震時管制運転 ・ 非常用発電時管制運転 ・ ピット冠水時管制運転 ・ 長尺物振れ管制運転 ・ 緊急地震速報連動運転	・ 火災時管制運転 ・ 停電時救出運転 ・ 浸水時管制運転 ・ 閉じ込め時リストア運転 ・ 自動診断仮復旧運転
	12 戸開閉方式	・ 2枚片引き戸(2S) ・ 3枚片引き戸(3S)	・ 2枚両引き戸(CO) ・ 4枚両引き戸(2CO)
	13 出入口方式	・ 一方向出口	・ 二方向出口
	14 正面停止数	( 停止 )	
	15 回生電力備蓄システム	・ あり	・ なし

仕様は、特記事項の○印の付いたものを適用とする。

適用しない場合は、無印または斜線とし、製造者標準とする場合は、その旨を記載する。

1. 建築物の用途に応じてエレベーターの用途を選択する。
2. 3. 4. 積載量、定員、定格速度は、設計基準「第7編 第1章 第4節 交通計算等」により算出する。
5. 機械室の有無を選択する。
6. 制御システムのサイバーセキュリティ対策の有無を選択する。対策を講じる場合は、対策手法を記載する。
7. 電源盤及び制御盤の設置位置を選択する。なお、平面図、断面図等にも図示する。
8. 高調波対策の有無を選択する。対策を講じる場合は、対策手法を記載する。
9. 動力計測用電力計の適用の有無を選択する。
10. 乗合方式を選択する。各方式については下記参照。製造者によっては製造者特有の表記がされる場合があるため表記方法に注意する。

乗合全自動方式 (SC)	かご内及び乗場ボタンによる呼びは多数登録可能で、一方向に運転中の場合は、その方向の呼びに応じて順次停止する。前方の呼びがなくなれば反転して同方向の呼びに応じる。
群乗合全自動方式 (MSC)	2台のエレベーターを併設する場合、2台のエレベーターが合理的に連携して乗合全自動運転をする方式。
全自動群管理方式 (GSS)	エレベーターを複数台まとめた群としての運転操作方式。交通需要の変動に応じて最適な運転管理を自動的に行う。

11. 適用する管制運転を選択する。
12. 戸の枚数、開閉方式を選択する。
13. 用途に合わせて出入口方式を選択する。
14. 階数及び停止階から停止数を決定する。
15. 回生電力備蓄システムの適用の有無を選択する。

表 3-1-2(b-1) かご仕様

項目		特記事項	
かご仕様	1 かご床	・ ゴムタイル(t3 以上) ・ ( )	・ 合成樹脂系タイル(t2 以上)
	2 敷居	・ アルミニウム材	・ ステンレス鋼板製
	3 敷物	・ ゴム ・ ( )	・ タイル(材質: )
	4 かご室(側板)	・ 化粧鋼板 ・ ステンレスヘアライン仕上げ	・ 鋼板塗装仕上げ ・ 鋼板シート貼り
	5 かご戸 材質	・ 化粧鋼板 ・ ステンレスヘアライン仕上げ	・ 鋼板塗装仕上げ ・ 鋼板シート貼り
	6 出入口検出装置	・ あり	・ なし
	7 操作盤 登録呼び取消機能	・ あり	・ なし
	8 各階案内表示板	・ あり	・ なし
	9 インターфон	通話先( )	
	10 館内放送用スピーカー	・ あり	・ なし
	11 換気扇	・ あり	・ なし
	12 照明器具	・ メーカー標準	・ ( )
	13 着脱式壁保護材	・ あり	・ なし

仕様は、特記事項の○印の付いたものを適用とする。

適用しない場合は、無印または斜線とし、製造者標準とする場合は、その旨を記載する。

1. 床の材質及び厚さを選択する。
2. 敷居の材質を選択する。
3. 敷物の材質を選択する。
4. かご側板の材質・仕上げを選択する。
5. かご戸の材質及び出入口検出装置の有無を選択する。
6. 操作盤の仕様を選択する。
7. 各階の案内表示板の有無、設置箇所を記載する。
8. インターфонの受話器設置場所（通話先）を記載する。
9. 館内の放送をかご内に流すスピーカーの設置の有無を選択する。
10. 換気扇の有無を選択する。
11. 照明器具の仕様を選択する。メーカー標準としない場合は、参考姿図等を示す。
12. 着脱式保護材の適用の有無を記載する。

表 3-1-2(b-2) かご仕様（付加仕様）

項目	特記事項
13 専用操作盤	・ なし
14 手すり	・ なし
材質	・ ステンレス鋼管 ・ ( )
15 鏡	・ なし
16 専用インジケーター	・ なし
17 キックプレート	・ なし ・ 正面壁
18 視聴覚障害者用装置	・ なし ・ 点字銘板 ・ インターホン応答灯

仕様は、特記事項の○印の付いたものを適用とする。

適用しない場合は、無印または斜線とし、製造者標準とする場合は、その旨を記載する。

13. 設置するエレベーターのうち、1台以上はかご室を高齢者、障害者等に配慮した専用操作盤を設置する。
14. 手すりの取付け位置、材質を選択する。
15. 鏡の有無及び寸法を記載する。
16. 設置するエレベーターのうち、1台以上はかご室を高齢者、障害者等に配慮した専用インジケーターを設置する。
17. キックプレートの有無及び材質を選択する。かご内正面壁への適用は別途特記する。
18. 視覚障害者仕様について、適用するものを選択する。

表 3-1-2(c) 乗場仕様

乗場仕様	項目	特記事項	
	1 三方枠 材質	・ 鋼板製塗装仕上げ ・ ステンレスバイプレーション仕上げ	・ ステンレスヘアライン仕上げ ・ ( )
	2 戸	・ 化粧鋼板 ・ ステンレスヘアライン仕上げ ・ ( )	・ 鋼板塗装仕上げ ・ 鋼板シート貼り
	3 専用乗場ボタン	・ あり	・ なし
	4 インジケーター 表示方式	・ 点灯式 ・ 音声装置	・ ホールランタン ・ ( )
	5 非常着床用出入口	・ あり(設置箇所: )	・ なし

仕様は、特記事項の○印の付いたものを適用とする。

適用しない場合は、無印または斜線とし、製造者標準とする場合は、その旨を記載する。

- 三方枠の材質・仕上げを選択する。
- 戸の材質を選択する。
- 設置するエレベーターのうち、1台以上は高齢者、身体障害者に配慮した乗場専用ボタンを設置する。
- インジケーターの表示方式及び音声装置の有無を選択する。
- 非常着床用出入口の設置の有無を選択する。設置条件は標準仕様書「第9編 2.2.3.7 非常着床用出入口」による。

表 3-1-2(d) 昇降路仕様

昇降路	項目	特記事項	
	6 ロープ自重の補償	・ 釣合くさり	・ 釣合ロープ

仕様は、特記事項の○印の付いたものを適用とする。

適用しない場合は、無印または斜線とし、製造者標準とする場合は、その旨を記載する。

- エレベーターの昇降行程が長く、網車のけん引力等に悪影響を与える場合は、ロープ自重を補償する釣合くさり又は釣合ロープを設ける。

表 3-1-2(e) 安全装置仕様

安全 装置 仕様	項目	特記事項	
	1 釣合おもり非常止装置	・ あり	・ なし
	2 設計用震度	・ $S_{14}$ ・ 時刻歴応答解析 床応答加速度( ) 一次固有周期( )	・ $A_{14}$ 層間変形角( )
	3 地震感知器	・ S 波感知器(普通級) ・ 長尺物振れ感知器	・ S 波感知器(精密級)

仕様は、特記事項の○印の付いたものを適用とする。

適用しない場合は、無印または斜線とし、製造者標準とする場合は、その旨を記載する。

1. 釣合おもり側非常止装置の適用有無を選択する。
2. 設計基準「第 7 編 第 1 章 第 8 節 耐震措置」に従って設計用震度を決定する。時刻歴応答解析による値を用いる場合は特記する。
3. 感知器の種類、精度を選択する。

※地震時管制運転や設計用震度については、技術基準の解説を参照して決定する。

表 3-1-2(f) エレベーター監視盤仕様

エレベーター監視盤	項目	特記事項	
	1 一般事項 構成	・ 監視装置 ・ 操作卓	・ 電源装置 ・ ( )
	形式	・ 自立形 ・ デスクトップ形	・ 壁掛形
	2 監視装置 表示部	・ LED 表示	・ 液晶ディスプレイ
	操作キースイッチ	・ 運転/休止切替スイッチ ・ 基準階切替スイッチ	・ 各管制運転操作スイッチ
3 操作卓	・ あり 寸法( )	・ なし	
4 エレベーター警報盤	・ あり	・ なし	

仕様は、特記事項の○印の付いたものを適用とする。

適用しない場合は、無印または斜線とし、製造者標準とする場合は、その旨を記載する。

1. 監視盤の構成及び形式を選択する。
2. 監視装置の表示部形式及び操作キースイッチを選択する。
3. 操作卓の有無を選択する。
4. エレベーター警報盤の適用有無を選択する。

表 3-1-2(g) 塗装仕様

塗装	項目	特記事項		
	1 塗装種別	• 1 種	• 2 種	• 3 種

仕様は、特記事項の○印の付いたものを適用とする。  
適用しない場合は、無印または斜線とし、製造者標準とする場合は、その旨を記載する。

1. 塗装種別を選択する。

昇降機の主な追加機能及び追加機能の対象施設の例を表3-1-3にまとめた。必要な機能について本表を参考に決定し、仕様表に追記する。表中の「一般性」は、取り扱い製造者の多さを示しており、一般性が低い機能については、製造者の特色が特に出やすい機能となるため、適用する場合は、その必要性及び表記方法についてよく検討すること。

表3-1-3 追加機能とその一般性(1)

項目	概要	一般性	設置施設例		
			庁舎	県営住宅	特別支援学校
赤外線ドアセンサ	出入口に赤外線センサを設け、乗り降りする人を検知して、自動でドアを開く	◎	○	○	○
ドア反転機能	閉まりかけたドアに人や物が挟まれたときにドアが反転する	◎	○		
かご照明と換気装置の自動休止	所定の時間エレベーターが使用されない場合、自動で照明と換気扇を停止させる	◎			
かご行き先取り消し機能	誤って登録された行き先階をキャンセルする	◎			
かご呼び一括キャンセル動作	かごの運転が反転する際、かごの呼びを一括でキャンセルする	◎			
いたずら呼び自動キャンセル	かご内が無人の時に行き先階が多数押されている場合、一括でキャンセルする	◎			
ドア過負荷時反転動作	ドア開閉時に物が挟まって異常な力が加わると、ドアを反転させる	◎			
休止機能	スイッチ操作によりエレベーターを休止する	◎	○	○	○
開延長ボタン	扉の開いている時間を延長する	◎			○
アナウンス機能	満員時や管制運転時にかご内の乗客にアナウンスする	◎	○	○	○
ドア故障時次階自動着床機能	ドアが開ききらない場合に最寄り階に移動し、ドアを開閉する	◎			
遠隔監視メンテナンス用インターフェース	管制センターに運転状態を伝送する	◎	○	○	
乗場側利用者検知機能	乗場側にいる人をセンサーにより検知しドアを開く	◎	○	○	○
ドア引込み防止機能	ドアの開閉時に戸袋付近に手や物がある場合、センサーで検知し、ゆっくりと開閉して引込みを防止する	◎			○
休止灯	エレベーターが休止して使用できない場合、乗場に使用不能であることを表示する	◎			○
遮煙機能付戸	乗場とかごの間を機密材で密閉し、遮煙性能を持たせる	◎	○	○	○
防犯カメラ	かご内に防犯カメラを設置する	◎		○	
高調波対策	高調波による通信機器等への影響を低減させる	◎	○	○	○
到着チャイム	かごが到着する直前にチャイムで乗場で知らせる	◎			
かごトランク	かご内にトランクを設ける	◎		○	
敷居間隙間幅 10mm 以下	乗場敷居とかごの間隔を 10mm 以下に縮小(製造者により幅が異なる場合がある)	◎	○	○	○

◎:複数のメーカーで標準 ○:一部のメーカーで標準 △:ごく一部のメーカーでのみ標準

表 3-1-3 追加機能とその一般性(2)

項目	概要	一般性	設置施設例		
			庁舎	県営 住宅	特別 支援 学校
効率配車待機	分散待機またはパターンを学習して効率的な配車をする	○			
操作盤カードリーダー (かご・乗場)	かご/乗場のボタンによる操作を無効にして、カードによる操作を行う	○			
各階停止運転	行き先階まで各階に停止しながら運転する	○		○	
かごゆすり検知機能	かごの揺れを検知して安全走行する	△			
強制戸閉動作	一定時間ドアが開いている場合、警報を出してドア閉めを促す	△			
満員出発時乗場呼び 自動登録機能	満員で出発した際、積残しのために自動的にその階を呼び登録する	△			
戸開放時間自動設定	呼びの種類に応じてドアの開放時間を自動で設定する	△			
ドアリオーブン動作	ドアを閉じかけたエレベーターがあるとき、乗場ボタンを押すとドアが開く	△			
緊急時 4 カ国語表示	緊急時に 4 カ国語表示する(日本語・英語・中国語・韓国語)	△			
着床時行き先階ボタン点滅機能	かごが目的階に近づくとボタンが点滅する	△			
ハイコントラスト凸文字ボタン	点灯していない状態の見やすさと触った時のわかりやすさに考慮	△			
大型乗場ボタン	乗場ボタンに大きいものを採用	△			
大型戸開ボタン	戸開ボタンを大きくする	△			
敷居溝幅 10mm	敷居の溝幅を 10mm に縮小	△			

◎:複数のメーカーで標準 ○:一部のメーカーで標準 △:ごく一部のメーカーでのみ標準

(※) 追加機能の設置施設例は、既存施設の整備例を参考に作成した。仕様を決定する際は、施設管理者等と協議し、採用する機能について検討すること。

## 3-1-2. 作図

決定した設備容量、仕様に基づき図面を作成する。図面の構成は表 3-1-4 による。

なお、特定の製造者の資料等を参考に作図する場合は「3-1-1. 仕様の決定」にて決定した仕様を基に 3 者以上から見積を収集し、最低価格見積の資料を参考に作図する。

表 3-1-4 図面の構成

図面名称	概要	備考
仕様表	基本仕様、かご意匠、乗場仕様他	必要に応じて詳細図を作成
各階平面図	かご室の平面の寸法、床面積求積図	
出入口立面図	乗場、かごの出入口の立面寸法	
昇降路平面図	昇降路の平面寸法、レールブラケットの水平荷重	
機械室平面図	機械室の平面寸法（機械室ありの場合）	
昇降路断面図	昇降路の断面寸法、巻上機、制御盤（機械室なしの場合）、安全装置、レール等	
その他計算書等	動力電源設備、地震時水平荷重、レール下端荷重、ピット荷重、工事区分等	

各図面に記載する内容は下記によるほか、建築基準法施行規則 1 条の 3 に規定される建築確認に必要な情報等の必要最低限の情報とする。工事区分は原則として昇降路を建築工事、昇降機までの電源工事及び通信設備工事（監視盤・警報盤含む）を電気工事とするが、各設計担当者とよく協議し、重複や漏れのないようにする。

## (a)仕様表

「3-1-1 仕様の決定」にて決定した基本仕様、かご・乗場仕様等を表にまとめる。

## (b)各階平面図

かご寸法等を示す。かごの寸法は、設計基準「第 7 編 第 1 章 第 2 節 乗用エレベーター」を参考に間口、奥行き、高さを決定する。

## (c)出入口立面図

出入口の寸法等を示す。出入口の寸法は、設計基準「第 7 編 第 1 章 第 2 節 乗用エレベーター」を参考に間口、高さを決定する。

## (d)昇降路平面図

昇降路の各寸法、レール等の昇降路内の機器の設置位置等を示す。昇降路の寸法は、設計基準「第 7 編 第 1 章 第 2 節 乗用エレベーター」を参考に間口、奥行きを決定する。

## (e)機械室平面図（機械室ありの場合）

機械室の各寸法、換気設備の位置、出入口の構造、機械室内に設置する機器及びその仕様

等を示す。

(f) 昇降路断面図

昇降路内に設置する機器の配置等を記載する。

(g) その他計算書等

① 動力電源設備等

電動機容量は、想定製造者の値を参考値として記載し、機械工事請負者は、製造者選定後に電動機容量等を電気工事請負者に確認する旨を記載する。

② レールブラケット地震時水平荷重

算出にあたっては、技術基準の解説を参考に算出する。

③ レール下端荷重（長期荷重）及びピット荷重（短期荷重）

算出にあたっては、技術基準の解説を参考に算出する。

④ 工事区分表

昇降機設備に関する工事の建築・電気・機械の区分表を作成する。作成の際は漏れ等が無いようにすること。なお、表 3-1-5 に工事区分表の作成例を示す。

表 3-1-5 工事区分表 (例)

工事内容	建築	電気	機械
昇降路の築造工事（防火区画工事）	○		
各階出入り口、インジケーター、押しボタンの穴あけ工事	○		
鉄骨構造のファスナー、立柱及び中間ビーム、敷居受材の設置工事	○		
鉄骨構造階の三方枠、インジケーター、押しボタン、ハンガーケース等の取付用鋼材設置工事			○
各階乗場出入口枠周囲のモルタル詰め工事			○
乗場機器取付後の出入口周りの壁及び床の仕上げ工事	○		
昇降路頂部へのエレベーター機器楊重用のフック又はビームの設置工事	○		
ピット内防水仕上工事	○		
ピット床下部使用の場合の建築対策工事	○		
ピットが深い場合の埋戻し工事	○		
ピット内に段差がある場合、転落防止柵又は壁の設置工事	○		
ピット点検用タラップの設置工事			○
昇降路の建築構造梁の耐火被覆工事	○		
三方枠取付後の裏詰め及び耐火処理工事	○		
機器搬入用仮設開口及び搬入後の復旧工事	○		
レール取付用プレート又はレール支持柱設置工事及び鋸止め塗装			○
レール取付用ビーム設置工事	○		
停止階間が 10m を超える場合、昇降路救出口の設置工事	○		
屋上、開放廊下等外気と接する乗場雨水よけ対策工事	○		
11 階以上出入り口が無い場合、地震時非常着床階設置工事	○		
昇降路内仮設足場の設置			○
乗場出入り口の遮蔽戸			○
乗場戸に近接して設ける防火シャッター等の防火区画工事	○		
その他建築に関する工事	○		
消火器の設置			○
動力用電源、照明電源、接地線の受電端子までの引込工事		○	
インターホン、火報、遠隔管理、防犯カメラ、スピーカー、防火シャッター連動信号、その他配管配線工事（昇降路より外部）		○	
昇降路、遮煙ドア設置階昇降ロビーへの煙感知器類の設置工事		○	
ピット内点検用コンセント設置工事		○	
地震時非常着床階の避難通路照明及び非常灯設置工事		○	
火災時管制用接点の支給		○	

### 3-1-3. 積算方法

昇降機設備の積算項目は、見積により各項目それぞれ一組として計上する。

なお、公共建築工事内訳書標準書式の各項目によらなくてもよい。

また、含まれる内訳について明記すること。

以下に専門工事業者の見積による例を示す。

(1) 機器材料費（昇降路内機器含む）

昇降機の機器材料に係る費用

(2) 監視盤材料費

監視盤の材料に係る費用

(3) 昇降機機器据付費

昇降機機器の据付けに係る費用

(4) 監視盤据付費

監視盤の据付けに係る費用

(5) 試験調整費

昇降機設備の試験運転・調整及び計測等に係る費用

(6) 官公庁届出手数料

官公庁への届出に係る手数料

共通費に含まれるため、積算時は直接工事費に積上げない

(7) 諸経費（現場労働者に関する法定福利費を含む）

諸経費は、別途算出するため、直接工事費に積上げない。

※製品製造工場の労働者等に対する法定福利費は、各材料費等の見積額に含むものとする。